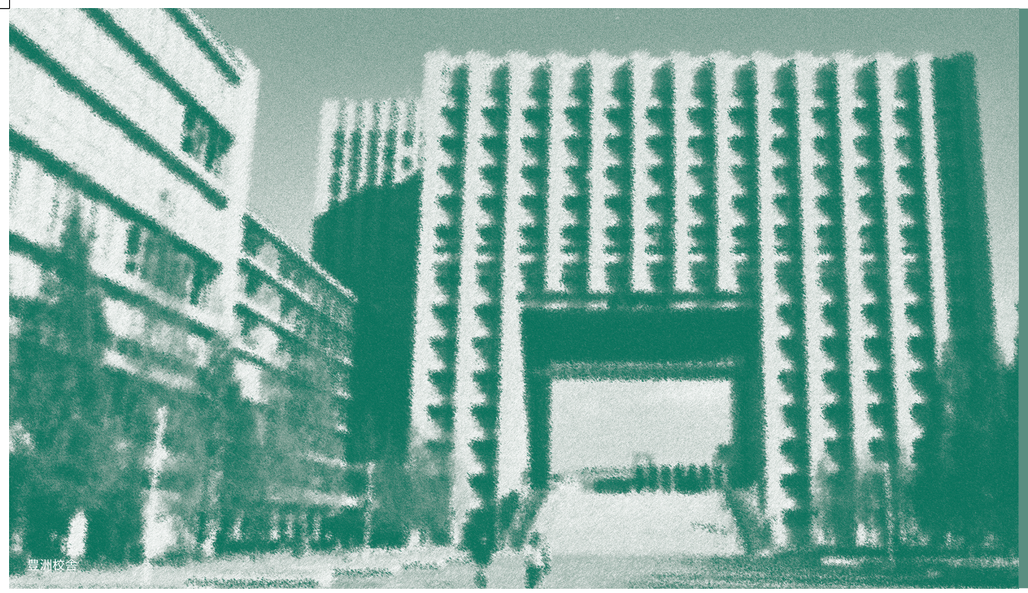



建築学科卒業生たより

# 芝浦工業大学 建築会

vol. 34
2018年11月

芝浦工業大学建築会
135-8548
東京都江東区豊洲3-7-5
TEL. 03-5859-8700
FAX. 03-5859-8401
http://sit-arch.com

## 新たな建築会活動を目指して

建築会 会長
枝広英俊（一九七一年卒）

建築会会長をお引き受けし、本年で二期目・四年目を迎えております。二〇一七年十二月九日（土）に開催された第十二回定期総会で再任され、継続および新規の役員・常任幹事等ともに新たな建築会活動を模索・実行していくことになりますので、宜しくご協力・ご支援の程をお願いする次第です。建築会は会員の把握や予算の不足、さらには新学部設立・再編による新たな活動など多くの問題・課題等を抱えながら進めて行くことになりますが、中でも最も重要と考えている会報「建築学科卒業生たより」の発行を始めて、本号で三十四号を数えることになりました。これまでの関係教職員や建築会役員およびご執筆頂いた卒業生の皆様には、改めて心から感謝申し上げます。と同時に、毎年楽しみにご精読・ご笑読頂いた会員の皆様には厚くお礼申し上げます。工学部建築学科の卒業生は、一九五七年～二〇一八年三月までに七千名以上の大学学部卒と約二千数百名の修士修了生を輩出してきました。その中で、近年では会費や寄付金を納入して頂いた方をはじめ、住所が判明している方に限定し、およそ四五〇〇～四六〇〇通の卒業生だよりを郵送させて頂いております。本年も従来と同様に送付させて頂きましたので、同窓の方々の近況や芝浦工業大学の現況などを熟読して頂ければ幸いです。

さて、昨年（二〇一七年）四月に建築学科は建築学部建築学科として、従来の工学部建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科（建築・空間デザイン領域）の二学科一領域を統合・再編し、一学科三コース（SA・UA・APコース）として新しい建築教育の展開を目指して開設され、豊洲一貫教育で新たなスタートを切りました。建築会としても新学部・新学科の今後の成長・発展を祈念し、協力を惜しまない所存ですので、卒業生諸氏の御支援も宜しくお願い申し上げます。二〇二〇年三月には、工学部建築学科の最後の卒業生を迎え入れることになり、また翌年二〇二一年三月には新学部卒業生に対する取組みも不可欠になってきます。従って、予算不足も懸念される中で、従来からの紙面による会報の発行・郵送は、今後の検討結果にもよりますが、早ければ次号の三十五号（または次々号の三十六号）をもって廃刊若しくは再考せざるを得ないとも推測されます。その際は、新たな情宣活動やネットワークの構築等を図りながら進めて行くことになると思われますが、卒業生諸氏のご意見・ご協力も頂ければ幸甚です。

また、ご病気後のリハビリに努力され、ほぼ回復された石川洋美先生（建築会顧問）からも貴重なご助言を頂きながら、また現教員のお考えや建友会（建築工学科OB会）の役員・幹事の方々との打合せを経て、結論付けることになることを付記させて頂きます。

新たな芝浦工業大学建築学部建築学科は、大学創立百周年に、さらに次の百五十年・二百年に向けて変革・発展を続けて益々の努力をされていくことになると思いますが、本会報をご覧になった卒業生各位様の更なるご協力とご支援をお願い致します。

なお、左記に示す役員・幹事一同（任期：二〇一七年～二〇二〇年）は、より一層の建築学科卒業生相互の輪を広げ、絆を深めるためにも、本年度も主に以下の計画に基づいて活動を進めて参りますので、皆様のご理解を宜しくお願いする次第です。

- ○建築会会報（卒業生たより）の作成と発行
- ○建築会組織の結束と高揚
- ○会費の納入のお願い（運営資金が激減しています）
- ○役員・幹事就任のお願いと活動の活性化
- ○建築会ホームページの充実・更新
- ○学位授与式への出席と建築会奨励賞の授与
- ○学生支援の推進と、卒業生支援の検討　など



## 2018年度　会計報告

（2018.7.31現在）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 収入 | 繰越金 | 銀行預金（記念事業） | 809,096 |
| | | 普通貯金（会費受入口座） | 753,066 |
| | | 現金 | 99,506 |
| | | （小計） | 1,661,668 |
| | 年会費振込（会員） | 2,000円×225名 | 450,000 |
| | 年会費振込（新会員） | 3,000円×53名 | 159,000 |
| | 寄付 | | 88,000 |
| | 雑収入（総会懇親会） | | 14,837 |
| | 預金利子 | | 4 |
| | 60周年記念事業貸出金回収 | | 101,500 |
| | （小計） | | 813,341 |
| | 計 | | ¥2,475,009 |
| 支出 | 会報第32号印刷費（5,300部）、封筒、払込取扱票 | | 358,345 |
| | 宛名シール（4,632枚） | | 54,000 |
| | （発送料）4,576通×81円 | | 370,656 |
| | 会報デザイン校正料 | | 108,000 |
| | ホームページ維持費 | | 23,111 |
| | 事務費　振込手数料 | | 2,592 |
| | 卒業生記念品 | | 62,964 |
| | デザインチャンピオンシップ支援 | | 49,762 |
| | 学位授与式御祝い金 | | 10,000 |
| | 建築工学科50周年参加費 | | 10,000 |
| | 同上　協賛費 | | 30,000 |
| | 同上 来賓交通費 | | 10,000 |
| | レターパック360円×60ケ | | 21,600 |
| | 通信費 | | 1,380 |
| | 計 | | ¥1,112,410 |
| 次期繰越 | | 普通預金（記念事業） | 754,920 |
| | | 普通貯金（会費受入口座） | 514,078 |
| | | 現金 | 93,601 |
| | 計 | | 1,362,599 |
| 支出＋次期繰越金 | | | ¥2,475,009 |

### 会費納入のお願い

前年度の決算は別紙の通りとなっております。年会費は、建築会にとって一番大きな収入源ですし、今年度からは新体制の元、引き続き会報の刊行費用、学科との共同事業などに頑張って参りますので、**年会費納入につきましては、一層のご理解とご協力をお願い致します。**

納入方法につきましては、封筒に記載されている会員番号をご記入の上、同封の郵便振替用紙で、年会費二千円をご送金下さい。個人情報に変更があった場合は、通信欄にご記入下さい。

| | | |
|---|---|---|
| 昭54 | 月居利久 | 昭62 |
| | 富安伸好 | 平1 |
| | 弓達和彦 | |
| | 笠井義文 | 平14 |
| | 賀村幸人 | 平15 |
| | 吉見光宣 | 平16 |
| 昭55 | 釜井重一 | 平18 |
| | 美原陽太郎 | 平21 |
| 昭56 | 川島聡 | 平24 |
| | 村田優 | 平26 |
| 昭57 | 大崎悶男 | 平27 |
| | 宮下俐 | 平28 |
| 昭58 | 千須和正夫 | 平29 |
| | 平澤龍一 | 平30（入会金・三千円） |
| 昭59 | 久本雅義 | |
| 昭60 | 伊藤政人 | 平9 |
| | 平林重徳 | |
| 昭61 | 加藤徹也 | |
| | 小山滋 | |
| | 今西直美 | 平10 |

| | | |
|---|---|---|
| 桐谷広二 | 平11 | 片桐恵 |
| 奥岡三好 | | 古市隆志 |
| 芹澤尚明 | 平14 | 正林一紀 |
| 高山直明 | 平15 | 宮本暢明 |
| 竹中明彦 | 平16 | 高島淳子 |
| 藤田武志 | 平18 | 守屋仁 |
| 山下浩司 | 平21 | 嶋崎望 |
| 砂野公一 | 平24 | 渡部伸吾 |
| 川口英樹 | 平26 | 木村康孝 |
| 郷田修身 | 平27 | 柄澤祥雄 |
| 杉原嘉一 | 平28 | 多久和大海 |
| 鈴木剛 | 平29 | 松永彬利 |
| 原修一 | | 大久保憲一 |
| 安藤毅 | 平30（入会金・三千円） | 岸田尚大 |
| 小山美智恵 | | 芦原伸治 |
| 青木哲也 | 平9 | 阿部航 |
| 笹本昌代 | | 網中聡子 |
| 戸田悟史 | | 石川朋一 |
| 渡邉将宏 | | 伊藤杏樹 |
| 秋山達哉 | 平10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 猪股裕介 | 荘司知宏 | 平原貢 |
| 今谷勇介 | 杉沢優太 | 福田陽平 |
| 江間智隆 | 杉山健太朗 | 古川保奈美 |
| 大山耕平 | 角航平 | 堀場陸 |
| 岡村知明 | 関紗綾香 | 増村朗人 |
| 岡本結里子 | 関川豊生 | 毛利慶 |
| 小野塚裕也 | 関口宝 | 望月裕馬 |
| 金澤慎太郎 | 髙橋大志 | 本橋駿 |
| 工藤滉大 | 築舘明智 | |
| 久保田柚子 | 寺田有里 | |
| 桑村豪士 | 長尾悠生 | |
| 小池正夫 | 中嶌健人 | |
| 小泉菜摘 | 中曽根紫帆 | |
| 河野祐輝 | 中津成博 | |
| 小平めぐみ | 長塚健太 | |
| 小林真由子 | 中溝恵理 | |
| 小林燎平 | 中村靖怡 | |
| 椎名綾乃 | 野呂大貴 | |
| 篠原大貴 | 花畑友喜 | |
| 嶋田康志 | 原彩乃 | |

### 編集後記

今号も、お忙しい中、原稿を快諾して下さった卒業生、先生、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。今号は卒業生の近況報告や活躍などお伝えすることが多く、例年よりもページ数が増え、計十四ページの会報をお届けすることになりました。さて、巻頭で枝広先生も触れておられますが、昨年の学科統合により、私たち建築学科卒業生が中心となってきた「建築会」も新たな卒業生を迎え入れる準備が必要になってきました。どのような名称や体制となるのかわかりませんが、活動内容については、これまで以上に卒業生や大学の今を伝え、大学と卒業生の架け橋となる集いになりたいと思っております。会報も、来号以降はスマフォやパソコン画面からのご挨拶になるやもしれませんが、より一層のご協力とご支援を頂き、新しい時代に繋げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

道田淳（一九九三卒）



kaihou2018_ol.indd 2-3　2018/10/26 11:42

【役員】

会　　長：枝広英俊（一九七一年卒）
副 会 長：土方勝一郎（建築学科主任）
同　　：辻村建（一九七一年卒）
同　　：功刀強（一九七六年卒）
同　　：松寿章（一九七八年卒）
同　　：川口英樹（一九九〇年卒）
同　　：道田淳（一九九三年卒）
事務局長：鈴木泉（一九八六年卒）
会　　計：染谷清（一九八九年卒）
同　　：郷田修身（一九九一年卒）
会計監査：佐藤久松（一九六七年卒）
同　　：加治喜久夫（一九七四年卒）

【常任幹事】

常任幹事：浅見勝（一九七六年卒）
同　　：島崎寛（一九八八年卒）
同　　：吉本竜也（一九九一年卒）
同　　：釜井重一（一九八〇年卒）
同　　：小山滋（一九八六年卒）
同　　：鶴浩一郎（一九八八年卒）
同　　：秉物丈巳（一九九五年卒）
同　　：安藤毅（一九九五年卒）
同　　：須藤恵（一九九九年卒）
同　　：鈴木美紅（二〇一二年卒）

【顧問】

顧　問：田口継道（一九六四年卒）
顧　問：石井敏明（一九六五年卒）
同　　：井家常雄（一九六八年卒）

【特別顧問】石川洋美（名誉理事長・建築学科元教授）

## 出会いと運命

**柴村壮湧**（一九六四年卒）

「こんにちは」柴村壮湧と申します。高校野球の名門、日大三高よりなんとか芝浦工大建築学科に入学致しました。高校時代も応援団にいた関係上、芝浦工大でも応援団に入団致しました。高校時代に暇な時間を見付けてアルバイトの発送所（芝浦工大の裏の方にありました倉庫）にてアルバイトをしていましたら、何とそのアルバイト先に芝浦工大の応援団の方々も同じアルバイトに来ていました。入学しましたらその方達が五～六人居りまして、顔を合わせた時は、その方達は現在の団長以下三年生と四年生ばかりで、相手も私を見てすぐに分かった様でしたので、びっくりしました。当時はハンドボールをはじめ、野球、スキー部やＢＯＸ部等、一～二部で大活躍をしていた時代でしたので、その全てに参加をして応援をしておりました。そんな関係で卒業するには、大変苦労致しました。それも各先生方と良き同級生にめぐまれまして、何とか五日遅れで卒業することもできました。

小さな建築会社でしたが就職もでき、三ケ月くらい現場に出て務めをしていましたら急に自宅から電話がかかり、後継者に関し、兄二人とも継がないので何とか三番目の私に継ぐ様に両親より話があり、後継することとなりました。急遽、会社を退職しまして僧侶となるべく勉強を致しました。そんな折り、大学時代に大変お世話になりました三浦元秀先生より私に人を通しまして、私が暇になったので学校へつとめて「学校のために仕事をしなさい」と言われまして、十年間程、芝浦工大の事務局に務めさせて頂きました。そんな関係で大学の教員、職員、卒業生（運動部を含む）の皆様と大変たくさんの方々と知り合いになっておりました関係上、当大学の評議員になる様選はれました関係上、当芝浦工大を卒業して住職をしている変わり者が北海道に一人おられていると聞いておりましたが、少ないのではないでしょうか？　又、同級生の五十嵐欠也君が永年に亘り理事長を務めているので最大の応援をしたいと想っております。

【浄土宗専心寺住職】

## 温暖化対策と地方の現実

**米澤稔**（一九六九年卒）

私は一九六九年建築学科を卒業して、竹中工務店に入社した。その後一九七五年より、父が創業した会社に転職し、現在に至っている。在学中は小高研究室（鋼構造）に入り浸り、故小高昭夫教授、故堀江文雄助教授には、多大なる教訓を頂いた。教授から「信念を持て」との教えは、今も座右の銘である。小高ゼミには多くの同志が集まり、ゼミ活動は充実したものだった。特に夏休み期間の合宿や、ゼミの交流会「なまず会」など、沢山の思い出がある。時は当に学園紛争の真中にあり、卒論は先生の十分な指導を受けられず、今も心残りである。

当社は先代からの建材ブロック製造業を生業としているが、小規模な建築業も兼業としている。戦後の復興期に、ブロック造住宅が耐震住宅として脚光を浴びた。転職して、約十年間務めましたが、同級生の五十嵐欠也君も評議員に入ってきました。私は同級生とは知らず話をしていましたら私と同級生だったことを五十嵐君より聞かされて、びっくりもしましたが、一番の劣等生と同級生の一番の出世頭が一緒に評議員をするとは一度びっくりでした。そんな関係もありまして私の手院でマンションを建てる時にはまた芝浦の皆様にささえられて何とか現在に至っておりますが、当芝浦工大を卒業して住職をしている変わり者が北海道に一人おられていると聞いておりましたが、少ないのではないでしょうか？　又、同級生の五十嵐欠也君が永年に亘り理事長を務めているので最大の応援をしたいと想っております。

【浄土宗専心寺住職】

## 三回の人生の岐路

**川本勝一**（一九七四年卒）

一九七四年安藤建設（現　安藤・ハザマ）へ入社しサラリーマン生活の第一歩を踏み出しました。爾来、東京本社・広島支店建築部・営業部・広島支店長・執行役員大阪支店支店長・顧問等歴任し二〇一四年三月、四十年に亘るサラリーマン生活に幕を下ろし、現在は郷里の広島県福山市に居を構え、晴耕雨読の生活を送っています。この年まで紆余曲折ありながらも、大過なく努めてまいりましたが、「三回の人生の岐路」というべき時にお世話になったお三方をご紹介させていただきます。

一つ目は大学四年時、当時校広研究室で校広助手から「今頃になって、どーしょんなら・・・東京では就職せんゆうてようたろうが・・就職先を調べちゃるけーはよーせにゃー」強烈な広島弁でした。実は長男という事情から卒業後は郷里広島へ帰る予定をしておりました。先輩から「東京で少し仕事をして帰ってもも遅くはないぞ」と言われて、急遽方針を転換し就職先をお願いした次第です。この時先生からご紹介頂いたのは、翌日が会社訪問の最終の日だった安藤建設だったのです。早速応募証明書を持参して会社を訪問しましたが、人事担当者から「芝浦工大建築学科からは既に三名の学校推薦者があり、まして二の成績ではちょっとどうかな・・・・でも剣道部の主将ということであれば、取り敢えず学科試験は受けて下さい」。なんとか筆記試験に合格し、二次試験では一人だけが学ラン姿の面接になりました。校広先生の最近の広島弁は色あせてきましたが、この頃の広島弁には言原文太なみの凄味がありました。この時のご指導なくして今日の私はありません。

二つ目は入社六年の時です。時の上司から「俺の目の前では君を退職させない。三度目の退職願いには、俺もいさぎよく根負けした。広島支店へ転勤出来るように掛け合うから考え直せ！」。この頃は（江戸者）の妻と結婚し、二人目の子供を身籠り、仕事も面白く、公私共に順風満帆な生活を送っていましたが、突然父が病に倒れました。長男モードにスイッチが入りました。帰郷して親父の面倒を見よう。そう私は決心しましたが、この上司は退職願いの受け取りを拒否され、人事部へ熱心に働きかけて頂き、最終的には慰留され広島支店へ転勤となりました。その後この上司は常務へと昇進され将来を嘱望されていましたが、病気で生涯を閉じられたのは痛恨の極みでありました。

三つ目は、私が四十四歳で、大理工事の統括所長として意気に感じていた時、時の支店長から「そろそろ現場を卒業して、営業をやってもらおう」という未知の営業職への配属命令でした。悩みました。まさに青天の霹靂で当時の落胆は今でも忘れられません。それから十三年の経過後、私が広島支店長に就任した際、いの一番にあの支店長から「営業転属に際し、一時期私を恨んでいたみたいだが、今回の発令で俺の夢がかなった。俺もうれしい！」と、電話の向こうで涙されておりました。人生の機微に触れた思いで有りました。

これまでの拙い人生を振り返ってみると、自分自身の鍛錬もさることながら、周辺の人達によって人生は変わるものだとしみじみ思うとともに感謝する今日この頃です。

余談ですが、既に八十周年を迎えた本学建築学科同様に先人が築いた素晴らしい歴史を四国遍路でも感じました。校友会広島支部のホームページで紹介していますので一読して頂ければ幸いです。

【元　株式会社安藤・ハザマ】

当時は、防水や断熱などの面で完成度が低くコスト高もあり、ブロック造の着工戸数が減少へと傾いていた。その折に、北海道大学の荒谷教授が唱える「人を活かす断熱思想」に出会い感銘を受けた。以来、ブロック造＋外断熱工法に取り組み、良質な省エネのブロック造住宅普及に努めてきた。

全地球的には、海水温上昇などの「不都合な現実」を突き付けられ、環境問題が緊緊の課題となっている。新たな温暖化対策の国際枠組みが、COP21（パリ協定）で採択された。日本政府も高い目標を設定し、様々な政策を駆使して、省エネルギー建築の普及に尽力しているが、その達成率は遅々として進んでいないようだ。

当社が所在する恵庭市において、市の環境審議会に席を置き、省エネルギー建築の推進普及に心を傾けている。現実には、室内空間の快適性には踏み込まず、表面的な炭酸ガス排出量の変化や場当たり的な省エネ・創エネ対策の議論に終始している。資金的に余裕のない当市では、何をやるにしても補助金頼りの現実がある。それでも、環境問題への取り組みは、あと送りにはできない。後世に、先人の気概を感じてもらえるように、知恵を絞り地域の独自性を打ち出し、環境保全と持続する社会づくりに貢献していきたい。

【よねざわ工業】

2018/10/26 11:42
kaihou2018_ol.indd 4-5

## これまでとこれから

**常盤木 隆**（一九七九年卒）

巷ではインベーダーゲームが大流行し、テレビやラジオでは西城秀樹のヤングマンが流れていた一九七九年。私は大学の建築学科を卒業して新宿中央公園に程近いアトリエ事務所に就職しました。新宿西口に林立する超高層ビル群に新宿センタービルが加わったのもこの年。そのビルは洒落たデザインのビルが多い中で武骨な佇まいを見せていました。

在学中は建築研究会、通称ケンケンという自主ゼミに四年間在籍しました。そこで当時助手をしていた熱血漢、衣袋洋一先生と出会い師弟関係を超えた極めて濃い人間関係の中で大学生活を過ごし、建築を学べたことは私にとって僥倖でした。そしてその中で育んだ繋がりがその後の私の人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。

私が就職した事務所は小柳津醇一先生の紹介でした。そこには大先輩の宮地巌さんが所長の一人としていました。その後私の友人である舩山君が院を卒業して入所して来ました。在職中に大学のクラブハウスや幕張のパティオスの設計に関われたのも小柳津先生のお陰だったと思います。

入所後十八年を経て私は独立し事務所を開設しました。同時に中央工学校に兼任講師として着任し、今に至っています。この学校を紹介してくれたのが衣袋先生の友人の加々美明さんでした。独立して間も無く大先輩の近藤親則さんと出会い協同で仕事をするようになります。その後、後輩の小杉君を迎えて福祉系建物を手掛けるようになりました。設計の一助にと運営者達とフィンランド、エストニアに研修旅行に同行したのもこの頃です。彼の地は北欧の福祉先進国ですが介護スタッフの多機能化が求められ、現場対応を模索中でした。

最近、企画から四年越しでまとめた中型案件のサ高住が竣工しました。私は日野市在住ですが設計の受注は国立・立川と地域密着型で展開しています。更に昨年からは松寿章さんとも仕事を協同でするようになりました。このように私のこれまでとこれからは大学時代の人達と地域の人達の繋がりの中にあるようです。

【ときわぎ建築設計主宰】

## バブル期を凌ぐ再開発の中、吉沢八景「ゆるぎの丘」で都市近郊の里山に対峙す

**亀山貴史**（一九八四年卒）

今夜もベランダ越しに東京スカイツリーを眺めながらこの文章を書いています。二〇一一年三月一八日に六三四メートルに達し、翌年二月下旬には夜間点灯試験が始まりました。三〇〇mに達した二〇一〇年二月頃には我家から遥か三〇キロメートル程南西に、薄ら塔影が見えていました。毎夜展望台の周囲に明滅する灯りが確認できます。

一方、その更に六〇キロメートル程先にあり、毎週の様に通っている神奈川県西部丘陵の一隅「ゆるぎの丘」から北東方向を見れば、平塚・茅ヶ崎市街の先に江の島が浮かぶ相模湾、左後方に横浜ランドマークタワーが見え、その左に東京スカイツリーが遠望できます。我家と東京スカイツリー、「ゆるぎの丘」は一直線上にあり、距離九〇キロメートル、往復一八〇キロメートルを移動しては、双方向から東京スカイツリーを眺めています。「ゆるぎの丘」は、五〇年来、青木や萱、東根笹が放置され、猪の住処になっていた所を、地元農家さんや近隣の皆さんと手を入れ、ここ五年程で、二宮町の吾妻山公園の見頃が過ぎた三月下旬から五月の連休まで一面真っ黄色の菜の花で覆われる様になりました。

「ゆるぎの丘」はこの地区の活性化協議会の事務局として、行政・大学・地元住民の方々や小・中学生も巻込んで選定・公表した「吉沢（きさわ）八景」の一景です。この活動を契機として訪れる人も増え、活性化の端緒に着いたといった所でしょうか。また、地域の社会教育・生涯学習や地域活動の、将来は来訪者の拠点施設としても期待される公民館は、既に建替の時期を迎えていますが、市の公共施設は、昭和四五年からの約二〇年間に建築時期が集中。更新時期を迎えるも、人口減少等に伴う歳入減や少子高齢化の進展に伴う介護保険等への繰出金増等を理由に現在全ての施設は維持できないという試算結果により、全市的かつ総合的な視点での選択と集中が必要、とされています。そんな中で、機能と必要面積を地元の皆さんの求めに応じ、要望事項として纏める機会に立会いました。結果として全ての要望が通らないかもしれない、という見通しの様ですが、「役に立った」との感想には安堵しています。相変わらず公民館だよりの最後に「注意！！ 鹿・猿・猪が出没しています」と記される地区に、今しばらく通うことになりそうです。

【総合不動産業】



## 卒業三十年

**石原健一**（一九八九年卒）

人生二十回目の引っ越しとなる転勤の内示を受けた私は、二十五年かけて戻ってきた関東を離れることをきらい、転職することにしました。齢四十八、果たして転職先が見つかるかどうかの不安はありました。しかし、施工サイドで仕事をする限り、なんとかなる！ という変な自信と、資格、技術、経験がものを言う建設業の特殊性が手伝って、思い切って決断しました。思えばそれまで、勤めていた会社が二社とも倒産し、その都度、家族共々、路頭に迷う危険がありましたが、何とか就職先が見つかったのも、建設業界の特殊性があったお蔭と考えています。確かにラインからは外れて、忙しさはなくなりましたが、好きな仕事であることと、健康であれば七十歳まで同じ環境で仕事ができることも可能とあって、充実した毎日を送っています。その後は後進指導が出来たらなあと考えているので、それまでしっかり経験を積んでいこうと思っています。

ところで私たち同期会は平成元年卒で、単純に「平成元年卒の会」と銘打って、活動を行っています。来年三十周年を迎えます。実は私は二十五年余り地方を転々としていた為、一度として大学関係の行事には参加していませんでしたが、関東に転勤になったことをきっかけに、都度参加をするようになりました。ゴルフを中心に、大学の行事や、同期会、研究室の行事と、できる限り参加するように心掛けています。特にゴルフは、四十歳から始めたので決して上手とは言えませんが、唯一の健康維持のツールであり、友人たちとのコミュニケーションを取るアイテムであり、私自ら音頭を取って企画しています。みんな仕事が有りながら、しぶしぶでも参加してくれるので、たいへんありがたいです。卒業三十年経った割にあまり見た目は変わらない？ メンバーだと個人的に思っていますが、このままみんな、元気に、次の十年、四十周年を迎えられたらなあと思うこの頃です。

【三井不動産レジデンシャル株式会社品質企画部】

## 建築士会の活動を通して

**星野尚紀**（一九九三年卒）

独立して事務所を始めるとき、ひとり親方の不安もあって、すぐに埼玉建築士会に入会したのは七年程前。建築士会のなかでも会員のバラエティが豊かなのが士会と思います。私の周りにも個人、組織、各事務所をはじめ、大工、建設業、塗装業、測量事務所、確認検査機関、行政など様々な職種の会員がいます。建築士であるという唯一の条件が多様な会員を持つ由縁でしょう。入会翌年には支部長に懇願されて支部役員を仰せつかり、その翌年には担当者の健康理由から、支部代表の青年委員を引き継いで親会の活動に参加しています。実年齢からは青年枠に違和感があるのですが、就労人口減少に加え、業界の人気低迷から若い会員が増えない実情もあります。

そんな折、埼玉では今年、連合会六十年目にして初めて全国大会を開催し、来年は十年毎に担当する関東甲信越ブロック青年大会(通称関ブロ大会)を開催することとなり、実行委員の一人として参加させていただいております。このような大会を通して他県会員の活動を知ると、同じ士会でも活動に大きな違いがあり、地域性を感じます。地方に行くほど会員同士のつながりは強く、仕事以外に専門性を生かした共同活動をしており、都心に近いほど団体としての活動は希薄です。埼玉建築士会も活動が盛んとは言えませんが、この二年連続の大会開催を通して、会員のコミュニケーションは各段に増え、お互いを知る良い機会となっているのも確かです。会費納入のみで活動に参加しない会員も多く、それはそれで大事なお得意様なのですが、やはり面倒と思わず、活動に参加して、たくさんのものを得ていただきたいと願うばかりです。

来年六月二十一日（金）、秩父市で開催予定の関ブロ大会では、連合会会長の三井所先生を来賓としてお迎えすべく、卒業生として恥ずべきことのないよう綿密に準備をして行きたいと思います。士会会員である多くの芝浦卒業生の方々のご参加をお待ちしております。

【nh-aa 星野尚紀建築事務所】

## 近況報告

**原田麻魚**（一九九九年卒）

給食のない夏休み、上の子のために毎朝お弁当を作っていると、定番というか、ベース音？ が生まれるのを感じる。通常、こういったものは生まれる瞬間に気付かないけれど、たまの夏休み、突然始まる六週間という限られた時間で、ここぞとばかりに顔を出すのを拝めたのは幸運だった。日常にベース音を響かせ始めたのは卵焼き。私は最近、卵焼き専用のフライパンを買ったのだ！ 小さな長方形の、焦げ付かない加工をした安物のフライパンではあるが、丁度よくお弁当に収まる卵焼きが四つ分、キチンと四角く仕上がる。卵二つに砂糖を二匙塩少々、適当に焼いて三分の一くらいの範囲にまとめて、そこからもう一品。空いた三分の二にウィンナー投入、ほうれん草を炒めるなど



kaihou2018_ol.indd 6-7
2018/10/26 11:42

など。こうして片面が焦げ気味の卵焼きとその他が今日のおかずだ。毎朝フライパンの使い勝手を堪能し、焦げた卵焼きが夏休みの味になる。この夏生まれたベース音は子育て時代の賑やかな思い出になりそうだ。

夏のベース音といえばもう二つ、海と山。今年の夏もいつもの浜へ通っている。最初に行ったのは、犬が死んだ翌々日。家にいれば先ほどまでこの傍らで、サーモンピンクの毛の少ないお腹を出して上を向き、ほのかに下の歯を見せながらゴキゲンに尻尾をふっているあの温かい生き物の気配に滅入ってしまいそうで、家族全員車に乗って飛び出した。年末の海辺の旅館は当日の相談で夕食はつかなかったものの、大らかな畳の続き間は心を鎮めてくれた。夜の浜を散歩すると砕けた波が真っ黒い底なしの空間に仄白く浮かび上がる。海風には不思議な透明感がある。一つ、長い間温かく日々を包んでいたベース音が消えた時だった。それから三年目。今年も夏の到来と共に待ちきれない気持ちでひと泳ぎに行ってきた。穏やかな遠浅の海は無数の砂を洗ってもなお透明、眉間にシワの寄ってきた私の頭皮を優しく洗ってくれました。山は知人に呼ばれて行った別荘地に眠っていた小さな山小屋を譲ってもらったもの。夏も涼しく毎日焚火をして過ごす数日。焚火も眉間のシワに効く。こうして一つ一つの音が重なる生活。消えていく音、重なる音。いつの間にか景色のように和音が聞こえてくる。

最近、ニュースや新聞を読んで不穏な音を感じる。それはどこか遠くの情報で、この生活には聞こえてこないもの、と思ってはいられないらしい。確かに感じる変な音。似た者同士で旋律を伴っているように思う。日々の生活の音と明らかに異なる趣味の旋律である。あの変な音に事実を積み重ねた日常の美しい和音を消されたくないものだ。七月は豪雨被害が中国地方を中心に広がった。向こうに設計監理した集合住宅があるので雨音が聞こえるような気持ちがした。それは崖の上に建っている。キャンチレバーで崖の上に張り出した形は、建物全体を崖地地形にバランスよくソッと載せる、振る舞いだった。響く雨音を感じながら、建物の隅々を布団の中でチェックする。大丈夫だと思って寝た。次の朝、様子を知りたくてHPを調べたら、その建物は社宅なのだが、持ち主の会社の避難所になっていた。なんだかとてもホッとした。建物が大丈夫だったこと、なにより建物が大丈夫だということが、言わずとも伝わっていること。もしかしてキャンチレバーの社宅の、その風貌の奥にある、（意外と?）真面目なベース音が聞こえているのかな、と思った。

先日、日本建築大賞という素晴らしい賞をいただいた。この賞を頂いた建築「道の駅ましこ」は引き渡し後何度と訪れているが、風景の中で嬉しそうに自分の音を奏でているように見える。堂々としたもので見ると笑ってしまう。周りの風景や屋根の下で働く地元の人々とも楽しくセッションしている「道の駅ましこ」の風景がこの先も続いていくのが楽しみだ。

【MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO】

## 意味のないこと

**荒堀祐司**（二〇〇四年卒）

二〇〇六年に大学院を修了後、現在の建設会社に入社して現場係員を丸一年経験、そこからはゼネコン設計部の一員として今日まで設計に携わらせてもらっている。

在学中は、亡くなられた小柳津先生の下で学部・大学院を通じて三年間、本当にお世話になった。先生が残して下さった言葉の中で今でも心に引っかかっている言葉がある。― 意味のないと思うことにでも全力で取り組んでみること ― 何気ない会話の中でふと聞いた言葉だったが、それを真に受けた当時の私たち仲間は、様々な意味のないことに随分と熱中した。（何をしていたかは本誌に相応しくないと判断して割愛する）その報告を嬉しそうに聞いて下さる先生の顔がとても印象的だった。

現在の職場が北関東エリアを管轄していることもあり、生産施設や物流施設、研究施設を中心とした設計を多く経験させて頂いている。いずれも市場の動きに極めて敏感な用途であるが故、短工期、ローコストが求められることはほぼ必須条件と言って良い。そうしたニーズに正面から応えようとすると、生産性や効率性を伴わない要素は極力排除しながらシステマチックに設計を進めていく思考に偏りがちだ。かたや建築は一度完成すれば、― 出来栄えの良し悪しに関わらず ― 社会性を帯びるもので、作り手やエンドユーザーを超えたところで社会に訴えかけることとなる。建築本来のあるべき姿や社会に与える影響などに対して、正面から向き合うことを避け、気づかないうちに「意味のないもの」として切り捨ててはいないだろうか、そんな葛藤を続けながらこの数年を過ごしている。ある人にとってみれば「意味のないこと」は、他の誰かにとっては「意味のあること」かもしれない。その逆も然り。

― 意味のないと思うことにでも全力で取り組んでみること ― どちらも表裏、やってみないと意味があるかどうかなんて分かりませんよ、今頃先生はそんなことを言っているかもしれない。その真意を理解するにはもう少し時間がかかりそうだ。

【戸田建設】

## 四年間のプロジェクトを終えて

**内野秋津**（二〇〇九年卒）

大学院卒業後、水戸の設計事務所に所属して約七年になります。これまでに、主に学校や図書館といった公共施設の設計・監理を担当してきました。恵まれたことに、そのほとんどで、基本設計から実施設計、監理まで計画に携わることができ、多くの勉強や経験をさせていただいています。

昨年十一月に四年間かけて取り組んできた石川県の図書館の設計・監理が終わりました。遠方だったこともあり、工事期間中の一年間は、毎週新幹線で現場と事務所を往復し、週の半分は現場で過ごすという生活でした。これまでの監理業務でも、週に一回は現場に足を運んでいましたが、今回のように一年間一つの監理に専念し、こんなにもじっくりと建物ができていく過程を見ることができたのは初めてでした。現場監督をはじめ、工事に係わる多くの方々との打合せや、図面のやり取りにこれまで以上に時間をかけられたことは、私にとってとてもいい経験でした。

また、事業主である市の方々ともサンプルやモックアップを用いて、イメージの共有をしていくという作業も繰り返し行うことができました。設計段階から様々なツールを使って説明を行ってきましたが、それでも出来上がってみないとわからなかったという部分も多く、それがうれしい驚きである場合もあれば、調整が必要な場合もありました。いかに設計意図や完成後のイメージを伝えることが難しいかを実感し、今後の課題だと感じています。

竣工から一年、開館から八カ月が経ち、近々、竣工一年目の検査に行きます。楽しみな反面、どのように使われているか、利用者にとって快適な建築になっているか、これまでやってきたことの答えを見に行くようで緊張します。振り返ると、現場で過ごした一年間は、大変でしたが、とても充実した時間を過ごさせていただいたと思います。

【三上建築事務所】

## 「ちいさくデッカイこと」を目指して

**守屋真一**（二〇一四年卒　二〇一六年大学院修了）

大学院を卒業し、組織設計事務所に就職した。その事務所は超高層建築を得意とし、大型再開発を多く手掛けている。一年目は十七万平米の病院の設計を担当した。そして三年目の春州で二万平米の再開発のプロポーザル、二年目は九に母校の先輩の誘いを受け、建築テック系スタートアップ「VUILD株式会社」にアーキテクトとしてジョインした。十一月に法人化したばかりの新しい会社だ。デジタルファブリケーションの中でも大型CNC機器shopbotを扱い、主材料を木とすることから林業の再生から六次産業化までをヴィジョンを掲げている。

一方で、大学院時代に東伊豆町で「空き家改修プロジェクト」という学生団体を立ち上げ、そのOBOG組織として、学生時代に改修した物件を運営する「NPO法人ローカルデザインネットワーク」の活動もパラレルキャリアとしてこの三年間継続してきた。学生団体は後輩があとを継ぎ、今期で五期目になる。全国五箇所に拠点を広げ、全国学生団体総選挙でグランプリになるまでの団体になった。東伊豆では現在学生が設計施工、NPOが企画運営として共同で空き物件をシェアオフィスにする計画を進めている。

もうひとつ、タイトルの「ちいさくデッカイことを」というのは社会人になる直前の春休みにつくった「マチナカ製図室」のコンセプトだ。台東区蔵前に二十五平米の空き物件を月五万円で借り、五人で五万円、五日間でリノベして場所をつくった。このモデルはまさに芝浦の製図室で、卒業して製図室が使えなくなるのであれば、自分たちでまちの中につくろう!という趣旨だ。月一で講演会や、イベントをする中でまちのひとから仕事を依頼されるまでになった。

この三年間、公私ともに様々なスケールの活動に携われた。その中でも個人規模のちいさな建築でも、ツボを抑えられれば十二分に社会にインパクトを与えることができると実感した。

組織設計事務所からスタートアップに移って半年。規模だけでみるとちいさなプロジェクトだが、〝スケールのある設計〟ができていると思う。NPOも行政や民間を巻き込み今度大きな動きになる兆しを感じている。どちらもちいさな建築から社会構造を変えるようなポテンシャルを秘めていることに魅力を感じている。今後も〝ちいさくデッカイこと〟を可能にする建築を追い求めていきたい。

【VUILD株式会社＋NPO法人ローカルデザインネットワーク】



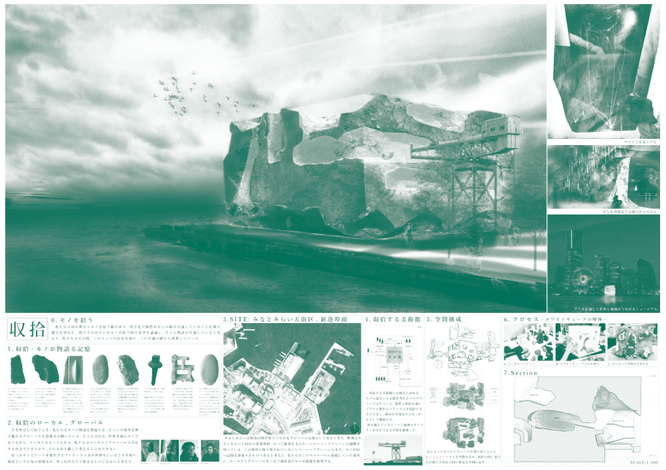
kaihou2018_ol.indd 8-9　2018/10/26 11:42

# デザインチャンピオンシップ二〇一七

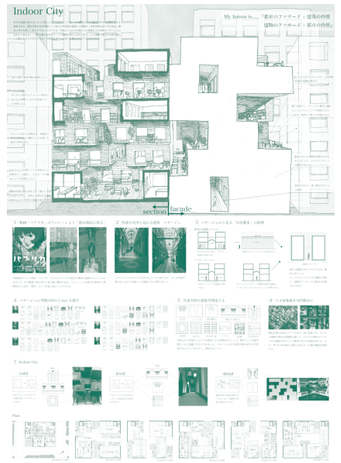
第十六回を迎えたデザインチャンピオンシップが、二〇一七年の芝浦祭期間中の十一月五日に開催されました。デザインチャンピオンシップは二〇〇二年より始まった建築学科主催の建築設計コンペです。毎年、外部講師をお招きして、七月に出題とご講演を、十一月の学祭期間中に合わせて公開審査と作品展示を行います。二〇一七年は建築家の新居千秋先生に出題いただきました。新居先生は、新居千秋都市建築設計を主宰され、日本建築学会賞、公共建築賞、ーーA日本建築大賞を初めとする多数の受賞経歴をお持ちの著名な建築家です。

『Liaison』という出題に対し、建築学科をはじめ、他学科、大学院から総勢四十七組の応募がありました。パネル展示の一次審査、公開プレゼンテーションの二次審査を行い、大学院二年生の本井加奈子さんの作品「Indoor City」、岡本隼樹さんと日内地清一さんの共同作品「収拾」が、並んで最優秀賞に選ばれました。審査終了後は、製図室で授賞式と懇親会を行い、大いに盛り上がりました。建築会ではこのイベントの後援を行いました。

この会報が届く頃、二〇一八年十一月二日にデザインチャンピオンシップ二〇一八が開催されます。今年度の出題と審査は、建築家の小堀哲夫先生です。豊洲キャンパスの建築学科製図室で行いますので、是非、学生の奮闘ぶりをご覧にいらして下さい。

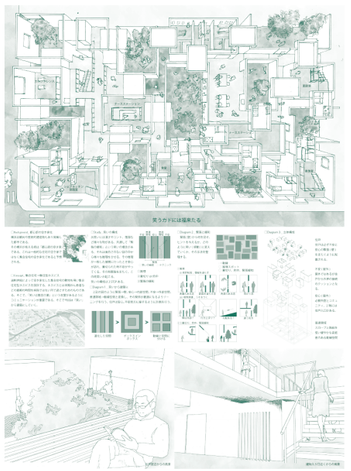


最優秀賞「収拾」岡本隼樹／日内地清一（大学院二年生）



最優秀賞「Indoor City」本井加奈子（大学院二年生）

新居先生と懇親会での一幕



優秀賞「笑うカドには福来たる」
奥野駿／小林春佳（大学院二年生）

参加者全員での記念写真

# 卒業生による業界研究セミナー二〇一八

建築学科主催の業界研究セミナーが二〇一八年一月十七日（水）に開催されました。卒業生を招いてのセミナーは、二〇〇四年から就職セミナーとして始まり、業界研究セミナーと名称を変えながら今回で十四回目の開催となりました。建築設計・構造設計・設備設計・建築施工・建築行政に携わる五名の卒業生をお迎えして、各分野での仕事のやりがいと難しさ、自身がどのように進路を選んだか、今日につながる学生時代の印象に残る思い出等、後輩にだからこそ伝えられる内容を率直にお話し頂きました。

卒業して十年ほどの若い先輩方のお話は、建築の実務の貴重な経験談とともに、就職活動のことなど、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える上で大変参考になったようです。学部生、大学院生共に多くの学生が参加して、学生からの質問も数多く出されて盛況なイベントとなりました。

講演者プロフィール

□施工分野　上田大裕（うえだ まさひろ）
二〇〇五年　枝広研究室
現職社名　大成建設株式会社
現職部署　東京支店建築1部
業務の内容　現場施工管理

□意匠分野　原嶋宏樹（はらしま ひろき）
二〇〇六年　堀越研究室
現職社名　鹿島建設株式会社
現職部署　建築設計本部
業務の内容　建築設計

□構造分野　足立幸多朗（あだち こうたろう）
二〇〇七年　岸田研究室
現職社名　株式会社安井建築設計事務所
現職部署　東京事務所　構造部
業務の内容　構造設計

□設備分野　根本智之（ねもともゆき）
二〇〇六年　西村研究室
現職社名　株式会社大林組
現職部署　本社設計本部　設備設計第三部
業務の内容　設備設計

□官公庁　城向咲（じょうこう さき）
二〇〇八年　南研究室
現職社名　横浜市
現職部署　建築局建築政策課
業務の内容　建築行政（建築環境の認証に関わる業務等）

# 建築学科関係者の活躍について

**土方勝一郎**（教授／二〇一八年度工学部建築学科主任）

ご案内のように二〇一七年度に建築学部が発足し、本年度は二回目の新入生を迎えました。当初懸念されていたような大きな混乱もなく、期待以上のスタートを切ったかと思います。入学志望者数も増加傾向を辿っており、学内外における芝浦建築のプレゼンスも従来以上に増してきました。さて、今回の建築会報では、このような状況を踏まえ、最近一年間の建築学科関係者の活躍について紹介させて戴きます。

一、教員の活躍

□道の駅ましこ（栃木県益子町）
二〇一七「JIA（日本建築家協会）日本建築大賞」に、原田真宏教授（MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO MOUNT主宰建築家）、原田麻魚氏（本校OB、同STUDIO代表）の設計による「道の駅ましこ」が選ばれました。本作品は、二〇一八「BCS賞」（日本建設業連合会）にも選ばれダブル受賞となりました。

□立山の家
二〇一八日本建築学会作品選奨に原田真宏教授、原田麻魚



kaihou2018_ol.indd 10-11
2018/10/26 11:42

氏の設計による「立山の家」が選ばれました。

道の駅ましこ（内観写真）

立山の家（外観写真）

□地域との交流：志村秀明教授

志村研究室では豊洲を含む東京湾岸地域の運河・水辺活用の促進を図る活動を、住民、学生、企業、大学、自治体などが一体となって継続しています。二〇一七年九月の豊洲水彩まつりから、豊洲五丁目にある通称・東電堀をメイン会場として開催しました。一日のイベントで約三〇〇〇名の来場者とたいへん盛況でした。

また二〇一三年度から開設している月島長屋学校（中央区月島）では、二〇一七年九月と十一月に、長屋学校の前面道路を使用した「こどもみちおえかきイベント」を開催しました。学生の卒業研究の一環として、若い世代の地域活動への参加を増やそうというねらいで開催したもので、多くの子ども達と保護者が参加して大好評でした。

東電堀で開催した豊洲水彩まつり 2017

□海外との交流：南一誠教授

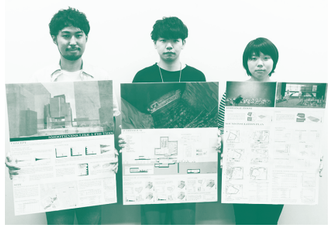
南研究室では、SGU事業の一環として、中国安徽省の黄山学院を、毎年、本学大学院生、学部生が訪問し、ワークショップ、フィールド活動などを行っています。二〇一六年一月には大学間でMOUを締結、継続的な交流を行うことに合意し、相手校からも毎年、教員、学生が本学を訪問しています。黄山学院の周辺には千年の歴史を有する集落や、徽州文化に根付く古民居が数多く残っており、それらを日中の学生が調査し、今後の保存活用や歴史的資産を活用した開発に関する検討を行っています。

日中の学生に集落調査、唐模集落の入り口にて

二．学生の活躍

□コンペ関係（一）

古屋研究室の安孫子晃さん、小林真由子さん、堀越研究室の岡本隼樹さんが、アメリカ音響学会主催の「建築音響設計学生デザインコンペティション」（The 2017 ASA Student Design Competition）に入賞しました。今回の課題は、都市市街地に建つ大学施設を想定し、それに付随した劇場・多目的スペースを中心とする複合的教育施設について建築音響の視点から建築設計・提案を行うものでした。



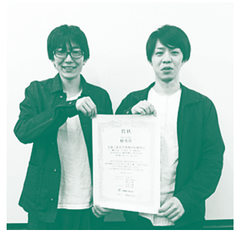
□コンペ関係（二）

第六回「大東建託賃貸住宅コンペ指名大学部門」において原田研のチームが優秀賞を受賞しました。

【受賞者】神崎潤さん、磯涼平さん、大久保憲一さん、北口絵梨奈さん、紺野雄輔さん、藤本亮太さん、森野航平さん、Eva Glisonさん（建設工学専攻一年）

【指導教員】原田真宏教授（建築学科）

【発表題目】のびのび長屋 ―都市近郊におけるマイクロディベロップメントの手法―



□コンペ関係（三）

Asian-Pacific Planning Societies 2017国際会議での研究発表で、志村研究室のチームが優秀ポスター賞を受賞しました。

【受賞者】Chenporn Lapcharoenさん、守屋圭那さん、Jia Yiyangさん、志村秀明教授

【発表題目】Development of a Community Design House by Collaboration between the University and Residents –a Case Study on Tsukishima Nagaya School–

□日本建築学会　優秀論文賞

南研の高橋大志さんが二〇一八年日本建築学会優秀卒業論文賞を受賞しました。

【受賞者】高橋大志さん（学部4年）

【指導教員】南一誠教授（建築学科）

【発表題目】サービス付き高齢者向け住宅の居室設備に関する研究 ―入居者の生活行動からみる居室設備の必要性と課題―

□建築学会大会　若手優秀発表賞（一）

古屋研の藤田鋭志さん（建設工学専攻一年）が日本建築学会大会（中国）において環境工学委員会 若手優秀発表賞を受賞しました。

【受賞者】藤田鋭志さん（建設工学専攻一年）

【指導教員】古屋浩教授（建築学部建築学科）

【発表題目】寺院建築の室内音響特性に関する調査

□建築学会大会　若手優秀発表賞（二）

濱崎研の澁井雄斗さん（建設工学専攻二年）が二〇一七年度日本建築学会大会（中国）学術講演会において若手優秀発表賞（材料施工部門）を受賞しました。

【受賞者】澁井雄斗さん（建設工学専攻二年）

【指導教員】濱崎仁教授（建築学科）

【発表題目】端島のコンクリート構造物中の塩化物イオン量に関する調査結果

□建築学会大会　若手優秀発表賞（三）

濱崎研の佐藤滉起さん（建設工学専攻一年）が二〇一七年度日本建築学会大会において鉄筋コンクリート構造部門若手優秀発表賞を受賞しました

【受賞者】佐藤滉起さん（建設工学専攻一年）

【指導教員】濱崎仁教授（建築学科）

【発表題目】接着系あと施工アンカーを用いた部材の構造特性評価に関する研究 その十　燃焼試験による接着剤成分の確認方法に関する検討

□日本建築材料協会　奨励学生賞

南研の関口宝さんが日本建築材料協会奨励学生賞を受賞しました。

【受賞者】関口宝さん（学部四年）

【指導教員】南一誠教授（建築学科）

【発表題目】文化財等の3Dスキャナを用いたデジタルデータ化

□日本建築仕上学会　学生研究奨励賞

濱崎研の曽我裕希さんが日本建築仕上学会において学生研究奨励賞を受賞しました。

【受賞者】曽我裕希さん（建設工学専攻一年）

【担当教員】濱崎仁教授（建築学科）

【発表題目】長期修繕計画における修繕周期の見直しに関する研究

三．二〇一七年度の卒業生

二〇一七年度の学位記授与式は、三月二〇日に東京国際フォーラムで、建築学科としては豊洲キャンパスのアーキテクチャープラザにて、執り行われました。建築学科第六一回卒業生として百十八名の若者が巣立って行きました。卒業記念パーティは場所を移して八重洲の世界食堂Transit Table d'Orにて行われ、枝広英俊建築会会長よりご祝辞をいただくとともに、学生幹事十二名に建築会より記念品が贈呈されました。

二〇一七年度の卒業研究（論文・設計）優秀賞および各賞の受賞者は以下の通りです。

□学業成績　最優秀賞・総代 和田湧気

□学業成績　優秀賞・有元賞 小泉菜摘

□学業成績　優秀賞（五十音順）

篠原大貴／嶋田康志／治部真悠子／関紗綾香

古川保奈美／吉田圭吾

□卒業論文　優秀賞（五十音順）

江間智隆「光散乱式粉じん計の較正に関する研究 -JIS試験用粉体一の十一種を用いた場合-」

小野塚裕也「外壁タイルにおける赤外線検査の精度向上のための研究



kaihou2018_ol.indd 12-13
2018/10/26 11:42

・様々なタイル仕上げを考慮した適用範囲の検討-」
坂巻花奈「地域材、地域施工による木造住宅の地域還元とその数値化 - 岐阜県N工務店の見積資料を分析対象として-」
外山裕太「コ現地・原寸ワークショップ手法の開発に関する研究 - 東京都墨田区北十間川周辺地区での取り組み-」
高橋大志「サービス付き高齢者向け住宅の居室設備に関する研究 - 入居者の生活行動からみる居室設備の必要性と課題-」
森本瑛里香「袞(目黒区八雲)氷川神社とその周辺に関する研究」

□卒業論文　優秀賞・浜田賞(五十音順)
小林燎平「木質ラーメンフレームにおける柱梁接合部の復元力特性に関する解析的検討 - 鋸状仕口をモデルとして-」
坂田 成「地震力を対象としたTMDによる制震効果の実験的研究」
野口佳都「杭頭接合部のト形部分架構におけるパイルキャップせん断耐力式の検討」

□卒業設計　最優秀賞・三浦賞
澤智己「不朽の郊外」

□卒業設計　優秀賞(五十音順)
小池正夫「繁殖する界隈 - 分散型大学による市街地再組織化のシステム-」
増村朗人「積もる街の痕跡 - 長岡における日常の編集-」

□卒業設計　特別賞(五十音順)
工藤滉大「R残郷がこだまする - 人々の対話が機能となる建築-」
堀場 陸「逃現郷 - セミラティス空間が括る多層的中学校の提案-」

二〇一七年度の入学式は、四月三日に東京国際フォーラムにて行われ、建築学部の第二期生(二四七名)を迎えることができました。大きな変革の中、二〇二〇年の新学部完成年度を目指して、教員一同、教育・研究に邁進する所存でございます。今後とも、建築会会員の皆様にはご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

## OBの受賞・沖縄建築賞

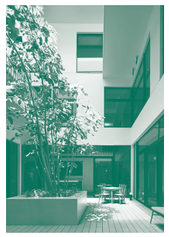
### 第四回沖縄建築賞の新人賞受賞について

**山口瞬太郎**（二〇〇五年卒）

私は建築学科を卒業して福岡の建築設計事務所に八年勤め、沖縄で独立しました。学校では日本建築史の藤澤研究室でありながら無理やり卒業設計をして先生を困らせた記憶があります。もともと、ひとつのことしかできない性格のため不器用なのですが、手がけた老人福祉施設で新人賞をいただいたことも二年間このプロジェクトだけをやり続けたことが大きな要因かもしれません。毎日現場に通い、現場事務所で汗と埃にまみれながら設計・監理を行いました。

通常は六〇〇〇平米を超える建物なら大手組織事務所がやるのかもしれません。「そんなスケジュールと予算で出来るわけないさ。」と共同設計を組もうと持ちかけた先で笑われたこともありました。しかし、目の前のことに集中して、ひたすらに現場で起こることを考え、判断して駆け抜けた充実した二年間でした。引き渡した後もクライアントには大変満足して使って頂いています。いつまでこんな無茶な設計活動ができるか、自分の体力と事務所経営の狭間で揺れ動いていますが、これからも沖縄の地で芝工大卒の名に恥じぬ設計活動を続けて行きたいと思っています。

山口瞬太郎（二〇〇五年卒）
一九八二年　宮崎県生まれ
二〇〇五年　芝浦工業大学工学部建築学科卒業
二〇〇五－二〇一二年　矢作昌生建築設計事務所勤務
二〇一二－二〇一四年　九州工業大学非常勤講師
二〇一六年　株式会社山口瞬太郎建築設計事務所設立



## OBの受賞・黄綬褒章

### 平成二十九年秋、黄綬褒章を戴いて

**勝部民男**（一九六九年卒）

岩手県建築士会長という立場が受賞の基底だと思いますが、本業の建築へのポリシーは、間違いなく芝浦で仕込んでもらったと思っています。

文系人間の私が芝浦を志望したのは、就職を考える親の「工学部絶対」の価値観に逆らえなかった故ですが、偶々見たTVのハンドボールの試合で、芝浦のエースが高校の先輩と知ったことや盛岡出身で平泉研究の藤島亥治郎先生が教授をされていることを知った故でもあります。中で、より文系っぽい建築学科を選んだわけです。直ぐに友達ができ、徐々に建築の世界に引きずられていきました。入学間もない頃、誘われ随いて行った、コルビジェという建築家の展覧会が衝撃的でした。それからは建築の話ばかりと上級生の課題の手伝の日々でした。

三年に奈良京都研修旅行がありました。法隆寺、桂離宮に感激し、特に奈良では日吉館のすき焼きと同宿の人達との語らい、二月堂から見る夕暮れの大仏殿と古都は、スペクタクルに満ちていました。この体験が古建築への憧憬の始まりだったかと思います。

四年には、前の年から沸き上がっていた学費値上げ反対闘争が、全学闘となり気が付いたらバリケードの中にいました。建築学科棟内では緊張感の中にも、ゼミの合宿さながら建築論を闘わせ、読書に明け暮れた毎日でした。あれほど本を読んだことはありませんでした。

H、K先輩。S、H、K、T君。年上の後輩U、F、O君そして闘士のY、N君等。先生では吉田、嶺岸、橋本、石黒先生。石川先生は熱血先生。三井所先生は一番若く、気安さから随分迷惑をかけました。このように、学年を超えた友達との交流、そして尊敬すべき先生を見出した芝浦での青春と彷徨が、今の自分のアイデンティティを形作ってくれたと思っています。

【株式会社三衡設計舎】

## 二〇一八年度 建築会費納入者

二〇一八年の建築会会費（二千円／年）納入者の卒業年と氏名を下記に紹介させて頂きます。内、十六名からは複数口納入いただきました。皆様には厚くお礼申し上げます。建築会の益々の活性化・発展等のために有効に使わせて頂く所存でおりますが、今後とも更なるご協力の程を宜しくお願い致します。

（役員・常任幹事一同）

元教員　塘 直樹
昭23　岩村嘉一
昭25　岩瀬定保
　岡田 實
　中村 弘
昭26　梅津英夫
昭30　澁木昭一
昭33　藤内哲雄
　岩井延雄
　加藤國雄
　鈴木 健
　勢〆 和
昭34　岡本嘉行
　菅野茂一
　久保田尚
　弦木 健
　横山達男
昭35　真塩浩一
　渡辺寛之
昭36　清田清司
　小山正栄
　佐藤勝利
　湯澤守孝
昭37　笠原彰夫
　小林 功
昭38　本間勝三
　三門一夫
　宮澤正倫
　五十嵐久也
昭39　楠井誉久
　白子 隆
　田口継道
　田邉恵三
　辻垣正彦
　辻村 進
　三浦敏彦
　村杉隆夫
　山本政徳
　渡邊 敦
昭40　今井紘一
　片山久美子
　北野哲也
　宍戸治雄
　谷端順一
　寺田京子
　永谷精孝
　古川道男
　矢口弘康
昭41　吉田 勇
　石鍋元章
　小澤良明
　山本文雄
昭42　棚岡 薫
　伊藤千秋
　佐藤久松
　手島美博
　仁木勝清
　宮内古勝
　山下健一
昭43　井家常雄
　大塚家光
　鈴木祥弘
　曽根 稔
　中村純雄
　峰村一彦
　山村亜男
昭44　西貝典也
　岡本博司
　勝部民男
　狩野三雄
　北川 亨
　國藤祚光
　久保崎文枝
　清水修司
　染谷 清
　鶴巻智信
　早川 昇
　平沢 勇
　前田高史
　松谷福三
　米澤 稔
昭45　家本喜久雄
　川崎政善
　小林昌彦
　佐藤元一
　成毛弘治
昭46　丸山寿一
　山本 勇
　角野和明
　須田昌孝
　山中 真
昭49　中村周一郎
　枝広英俊
　大江秀次
　唐沢 勉
　河合 誠
　久米 勝
　佐藤秀夫
　高平 剛
　辻村 建
昭50　橋本貞章
　藤井聖良
　藤森正男
　峰岸 厚
　宮本裕義
昭51　山田 洋
　和田伸一
　渡部 精
昭52　高瀬 茂
　直海秀紀
　松塚 昇
　伊津道人
　増山 栄
昭53　阿武隈川修
　新井純治
　猪原幸生
　瀬口啓一
　高原三平
　玉井賢一
　長井義明
　永海文治
　永峰達雄
　西村 修
　松田悦朗
　村石俊郎
　山根克史
　石山則広
昭54　亀甲将実
　鈴木秀幸
　塚田栄一
　戸山芳一
　野崎喜一郎
昭55　岩瀬繁
　牛山信康
　枝広秀子
　加治喜久夫
　河村和明
　川本勝一
　能村博史
　山口登司
　春日義則
昭56　小林 中
　齋藤修一
　中野隆夫
　山本 仁
昭57　山崎 眞
　浅見 勝
　阿部澄夫
　伊東昭博
　功刀 強
昭58　小林一生
　菅原紀昭
　早川金光
　早水親廣
昭59　牧内昭憲
　金岡 敏
　須賀研太郎
　竹原基好
昭60　寺門慶二
　中村二郎
　西村一孝
　萩野正雄
　林田和雄
昭61　山崎雅紀
　伊藤 清
　岩田和重
　小川邦博
昭62　松寿 章
　田浦英典
　高橋延幸
　田口昌男



kaihou2018_ol.indd 14-15
2018/10/26 11:42